

岐阜県 難聴児支援センターだより

● 片耳がきこえにくい子のセミナー in 多治見市 ●

令和8年6月5日 多治見駅北庁舎 13:30~15:00

Vol. 19

令和8年9月



講話 テーマ：難聴について ～一側性難聴の体験談も交えて～

講師：松波総合病院 耳鼻咽喉科 医師 小川博史 先生

岐阜県の中でも東濃地域は、難聴児の医療、療育等について、アクセスの面で愛知県に行きやすさがあります。そのような場合、岐阜県としての難聴のお子さんの把握が難しく、学齢になって岐阜県内の学校に通うようになると、岐阜県内の関係機関との連携につながりにくい場合があります。少しでも、岐阜県内の難聴のお子さんが県内の機関と関わり、支援につながる機会として、毎年、お子さんのきこえに関するファミリーセミナーを東濃地域で実施しています。また片耳難聴のお子さん、保護者の方のご要望も多いため、「片耳がきこえにくい子のセミナー」の今年度1回目を多治見市で実施しました。連携の糸口として、お子さんの様子を把握してみえる多治見市の保健師の皆様にご協力いただき、実施の運びとなりました。保護者、療育機関職員、保健師、学校職員、放課後等デイサービス職員、東濃教育事務所担当者、岐阜県教育委員会担当者にもご参加いただき、40名以上の参加者がありました。その中で、今まで当センターとつながりのなかったお子さん、保護者の方3組とつながることができ、とても有意義でした。

片耳がきこえにくい子のセミナーではあるものの、聞こえにくさをもつお子さんやその保護者の方、関係者が気軽に参加していただけるように、小川博史先生には、両耳の難聴についてもお話いただきました。両耳難聴についての内容では、1-3-6ルール(生後1か月：聴覚スクリーニング検査、生後3か月：難聴診断、6か月：補聴器装用、療育開始)についてや、難聴児が聞き取りづらさを感じる授業科目、難聴児の聞き疲れ等を話していただきました。一側性難聴についての内容では、ご自身の経験を踏まえて、学校生活の様子、運動系の部活動での工夫、社会人になって困ったこと等、エピソードを織り交ぜながら、お話をいただきました。

参加していただいた方からのアンケートに「先生のお話は2回目ですが、子どもが生まれたての頃に聞くのと、保育園に通いはじめて聞くのとでは、また新たな気持ちで聞けましたし、保育園へ再度伝えようと思いました。」とありました。同じ話を聞いても、その時の気持ちやライフステージ、関心が向いていたり、困っていることなどによっても、耳に入ったり、心に染み入ったりする部分は異なるので、片耳がきこえにくい子のセミナーに繰り返し参加いただいたり、ライフステージごとに、当センターに相談していただけたらと思います。そういった伴走型支援も当センターで行っておりますので、知っていただけたらと思います。



● お子さんのきこえに関するファミリーセミナー in 羽島市 ●

令和8年6月22日 羽島市役所 9:30~11:00

講話 テーマ：きこえないってこんなこと ～岐阜県の難聴児支援の様子～

講師：岐阜県難聴児支援センター 福井智恵 支援員

お子さんのきこえに関するファミリーセミナーを通して、地域の難聴のお子さんや保護者の方、関係者とつながるのも当センターの大きな役割の一つです。今回は羽島市の保健師さん方のご協力をいただいて羽島市で行いました。アクセスのしやすさもあり、色々な市町村からご参加をいただき、保護者7名、療育機関関係者、放課後等デイサービス職員、小学校言語通級の職員、岐阜聾学校の職員、羽島市の保健師の方総勢23名での実施になりました。

当センターの福井支援員の講話では、聞こえにくさについての基本的な話や、新生児聴覚スクリーニング検査にての難聴疑いから、確定診断、療育、教育への流れを分かりやすくお伝えしました。講話後の難聴体験の時間を長く設け、4名ずつのグループに分かれて、グループワーク形式で聞こえにくさを体感してもらおうと、イヤホンにプラス、ヘッドフォンを使って、聞こえにくい状態を体験してもらいました。4名中1名だけが難聴体験をし、その状態で他の3名とコミュニケーションをとる形のワークショップです。グループ内での会話が始めると「グループの人が何を話しているのか全くわからない」という声が聞かれました。会話についていけない疎外感を感じる方もあったようです。難聴体験の役割を交代してやったのですが、交代していくにつれて、「伝わりにくい相手に、どうやって伝えたら良いか」を周りの人々が工夫する姿が見られるようになりました。

参加者の事後アンケートで、多くの方から医療、療育、教育について、もっと知りたいというお声がありました。今後もまたセミナーの内容を充実していけるようにしていきたいです。

イヤホンの上にヘッドフォンをしてみよう！



思ったより聞こえないんですね。

● お子さんのきこえに関するファミリーセミナー in 岐阜市 ●

令和8年7月17日 岐阜大学医学部附属病院 14:00~15:30

講話 テーマ: きこえにくさのある子の学校生活について

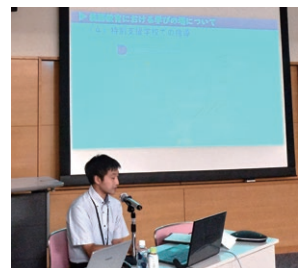
講師: 岐阜県教育委員会 特別支援教育課 加納芳訓 先生

当センターでの保護者の方からのご相談の中で多い内容の一つに、療育、教育に関することがあります。両耳難聴、片耳難聴に関わらず、「通常の園や学校に通えるのか」「園や学校の先生方にどのようなことを伝えたら良いのか」などがあります。そこで、今回は、岐阜県教育委員会特別支援教育課の加納芳訓先生にお願いして、難聴のあるお子さんの学校生活について、ご講話をいただきました。

特別支援教育とは「子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育」であり、具体的に、3つのポイントでお話がありました。

- ①「義務教育における学びの場について」・・・通常の学級、通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校といった多様な学びの場が整備されており、そこに支援員や看護師、専門家(ST、OT、PT)がサポートしている体制について
- ②「学校生活における支援と指導」・・・学校生活での困りごとやそれに対する支援、「自立活動」の時間における具体的な指導内容について
- ③「過ごしやすい学校生活のために」・・・支援⇒できた⇒自信、話す⇒分かち合う⇒安心 という流れについて

会場22名、オンライン12名の参加者がありました。午後の時間帯だったので、小学生のお子さんの参加もありました。講話後の交流会では、学校の先生方からは「どのようにしたら、お子さん達が学びやすい環境になるか」の視点でご質問等がありました。また、保護者の方からは、「聞き取りにくいことで指示に気づかず、取り掛かりが遅くなってしまうこともあるが、自信をなくして欲しくない。」などの声もありました。立場の違う方々が感想等を述べあうことで、理解が深まるよい交流会となりました。



● 岐阜県難聴児支援センターだより ● ● お子さんのきこえに関するファミリーセミナー案内 ● **申し込み**

ご注意ください 令和8年9月より、お申し込みのないご家庭への郵送は終了します。

★ご事情により郵送、またはメールでの配付をご希望の方は、下の二次元コードより、お申し込みください。

自宅に郵送 郵便番号、住所をご記入ください

メール配付 メールアドレスをご記入ください

センターだより、セミナー案内
ご希望はこちら ▶



今年度、センターだより等の送付を希望 *
します
複数回答可

☐ センターだよりの送付を希望します
☐ セミナーの案内の送付を希望します

郵送を希望する場合（郵便番号からご住所
をご記入ください）

回答を入力

① メール配付を希望する場合（メールアドレス
をご記入ください）



● 交通アクセス・病院へのアクセス ●



● 鉄道

【JR】
東海道本線「岐阜駅」で下車
【名古屋鉄道】
名鉄本線「名鉄岐阜駅」で下車

● バス

JR岐阜 名鉄岐阜	岐阜大学・病院線	／約30分	岐阜大学 病院下車 料金 (400円)
	直行便 清流ライナー	／約25分	
	岐南町線	／約40分	

発行: 岐阜大学医学部附属病院

〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1番1
TEL 058-230-6198 FAX 058-230-6199

<https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/origin/gifu-deaf-center/>
E-mail: g_nantyo@t.gifu-u.ac.jp